

平成25年（2013年）3月期 第2四半期決算説明会

（平成24年4月1日～平成24年9月30日）

 澁澤倉庫株式会社

平成24年11月15日

目次

I. 平成25年3月期 第2四半期決算の概要	ページ
I-1. 連結経営成績	3
I-2. 個別経営成績	5
I-3. 事業セグメント別営業収益	6
I-4. 事業セグメント別営業利益	8
I-5. 連結財政状態	9
I-6. 連結貸借対照表	10
I-7. 連結キャッシュ・フローの状況	12
II. 平成25年3月期 通期業績予想他	
II-1. 通期の連結業績予想	13
II-2. 事業セグメント別営業収益（予想）	14
II-3. 事業セグメント別営業利益（予想）	15
II-4. 中期経営計画のレビューと今後の課題	16
II-5. 設備投資の状況	25
II-6. 配当の状況	26

I - 1. 連結経営成績①

(単位：百万円)

	前第2四半期	当第2四半期	前年同期比	
			金額	比率
営業収益	27,643	27,353	▲290	▲1.1%
営業利益	1,610	1,321	▲288	▲17.9%
営業外損益	▲176	▲182	▲6	—
経常利益	1,434	1,138	▲295	▲20.6%
特別損益	10	▲426	▲436	—
法人税等	548	316	▲231	—
少数株主利益	20	12	▲7	—
四半期純利益	875	382	▲492	▲56.3%

I - 1. 連結経営成績②

営業収益	不動産事業および国内物流業務が増収となったものの、震災対応の緊急輸送需要の終息による輸入航空貨物の取扱い減少や海外経済の減速による輸出貨物の取扱い減少により減収
営業利益	物流事業における収益減に伴う利益の減少と固定資産取得に伴う一時費用の発生により減益
経常利益	資金調達費用は減少したものの、営業利益の減少により減益
四半期純利益	投資有価証券評価損を特別損失として計上したことにより減益

I-2. 個別経営成績

(単位：百万円)

	前第2四半期	当第2四半期	前年同期比	
			金額	比率
営業収益	23,992	23,962	▲29	▲0.1%
営業利益	1,493	1,205	▲287	▲19.3%
営業外損益	▲163	▲157	6	—
経常利益	1,329	1,048	▲281	▲21.2%
特別損益	▲96	▲424	▲327	—
法人税等	512	278	▲234	—
四半期純利益	721	345	▲375	▲52.1%

I-3. 事業セグメント別営業収益①

(単位：百万円)

	前第2四半期	当第2四半期	前年同期比	
			金額	比率
物流事業	24,205	23,978	▲227	▲0.9%
倉庫業務	4,615	4,678	63	1.4%
港湾運送業務	2,759	2,728	▲30	▲1.1%
陸上運送業務	13,946	13,964	17	0.1%
国際輸送業務	2,122	1,884	▲237	▲11.2%
その他の物流業務	762	721	▲40	▲5.4%
不動産事業	3,379	3,438	58	1.7%
計	27,585	27,416	▲168	▲0.6%
その他	124	—	▲124	—
セグメント間の内部 営業収益又は振替高	▲65	▲63	2	—
連結営業収益	27,643	27,353	▲290	▲1.1%

I-3. 事業セグメント別営業収益②

物流事業	倉庫業務	荷役料収入は前年同期並みに推移したものの、保管料収入が増加し増収
	港湾運送業務	輸入貨物の取扱いは増加したものの、在来船貨物に係る船内荷役業務などの輸出貨物の取扱いが減少したことにより減収
	陸上運送業務	震災対応に伴う長距離輸送の取扱いが減少した一方、一般消費財の輸配送業務や流通加工業務の取扱いが増加し増収
	国際輸送業務	航空貨物の緊急輸送の取扱いが大幅に減少したうえに、海上貨物の取扱いは減少に転じ減収
不動産事業		平成24年2月竣工の賃貸用寄宿舍「ドリーミー三宮」が寄与したことやビルメンテナンスなどの管理料収入が増加したことにより増収

I-4. 事業セグメント別営業利益

(単位：百万円)

	前第2四半期	当第2四半期	前年同期比	
			金額	比率
物流事業	948	740	▲207	▲21.9%
不動産事業	1,535	1,380	▲154	▲10.1%
計	2,483	2,121	▲361	▲14.6%
その他	▲21	—	21	—
調整額	▲851	▲799	51	—
連結営業利益	1,610	1,321	▲288	▲17.9%
営業利益率	5.8%	4.8%	▲1.0ポイント	—

物流事業	費用は前年同期並みだったが、収益減のため減益
不動産事業	収益増はあったものの、固定資産取得に伴う一時費用が増加し減益

I-5. 連結財政状態

(単位：百万円)

	前期末	当第2四半期末	前期末比
総資産	84,817	86,276	1,458
負債	52,253	53,946	1,693
純資産	32,564	32,329	▲235
(うち少数株主持分)	(661)	(672)	(11)
自己資本比率	37.6%	36.7%	▲0.9ポイント
1株当たり純資産	419.59円	416.35円	▲3.24円

総資産	投資有価証券の時価評価による減少があったものの、有形固定資産の取得により増加
負債	長期借入金が増加したこと等により増加
純資産	四半期純利益の計上があったものの、配当金の支払やその他有価証券評価差額金の減少等により減少

I-6. 連結貸借対照表①

(単位：百万円)

	前期末	当第2四半期末	前期末比
流動資産	21,685	19,713	▲1,971
受取手形及び取引先未収金	9,459	9,938	478
有価証券	4,403	2,101	▲2,301
固定資産	63,120	66,555	3,435
有形固定資産	51,538	55,811	4,272
建物及び構築物(純額)	31,138	31,742	603
土地	18,870	22,592	3,722
無形固定資産	727	798	71
投資その他の資産	10,853	9,945	▲908
投資有価証券	8,455	7,484	▲971
繰延資産	12	7	▲5
資産合計	84,817	86,276	1,458

I-6. 連結貸借対照表②

(単位：百万円)

	前期末	当第2四半期末	前期末比
流動負債	13,713	20,250	6,536
1年以内償還社債	—	7,000	7,000
固定負債	38,539	33,696	▲4,842
社債	7,000	—	▲7,000
長期借入金	24,185	26,354	2,168
負債合計	52,253	53,946	1,693
株主資本合計	31,507	31,622	114
利益剰余金	18,016	18,130	114
その他の包括利益累計額	396	34	▲361
その他有価証券評価差額金	1,094	708	▲386
少数株主持分	661	672	11
純資産合計	32,564	32,329	▲235
負債純資産合計	84,817	86,276	1,458

I-7. 連結キャッシュ・フローの状況

(単位：百万円)

	前第2四半期 累計期間	当第2四半期 累計期間	前年同期比
営業活動によるCF	953	2,020	1,067
(内、減価償却費)	(1,320)	(1,259)	(▲61)
投資活動によるCF	▲4,590	▲6,414	▲1,823
財務活動によるCF	4,094	2,167	▲1,926
現金及び現金同等物の 四半期末残高	8,681	6,323	▲2,357

営業活動によるCF	売上債権の増加等があったものの、税金等調整前四半期純利益の計上および減価償却費による資金留保等により増加
投資活動によるCF	有形固定資産の取得による支出等があったため減少
財務活動によるCF	長期借入金の約定返済および配当金の支払いがあったものの、長期借入れによる収入があったため減少
現金及び現金同等物の 四半期末残高	営業活動および財務活動によるCFの増加あったが、投資活動によるCFの減少により減少

II-1. 通期の連結業績予想

(単位：百万円)

	前期実績	上半期 (1Q・2Q) 実績	下半期 (3Q・4Q) 予想	当期予想	前期比	
					金額	比率
営業収益	53,496	27,353	26,146	53,500	3	0.0%
営業利益	2,722	1,321	1,528	2,850	127	4.7%
経常利益	2,377	1,138	1,361	2,500	122	5.2%
当期純利益	930	382	817	1,200	269	28.9%

営業収益	物流事業は国際輸送業務、陸上運送業務で減収、倉庫業務で増収、不動産事業は新規施設の稼働により増収、全体ではほぼ前期並みを予想
営業利益	不動産事業での利益増が寄与することから増益を予想
経常利益	営業利益の増加により増益を予想
当期純利益	投資有価証券評価損を特別損失として計上したが、経常利益の増加等により増益を予想

II-2. 事業セグメント別営業収益（予想）

(単位：百万円)

	前期実績	上半期 (1Q・2Q) 実績	下半期 (3Q・4Q) 予想	当期予想	前期比	
					金額	比率
物流事業	46,720	23,978	22,681	46,660	▲60	▲0.1%
倉庫業務	8,949	4,678	4,601	9,280	330	3.7%
港湾運送業務	5,417	2,728	2,671	5,400	▲17	▲0.3%
陸上運送業務	27,055	13,964	12,965	26,930	▲125	▲0.5%
国際輸送業務	3,841	1,884	1,765	3,650	▲191	▲5.0%
その他の物流業務	1,456	721	678	1,400	▲56	▲3.9%
不動産事業	6,780	3,438	3,401	6,840	59	0.9%
その他	124	—	—	—	▲124	—

※ セグメント別営業収益は「セグメント間の内部営業収益又は振替高」を含んでおりません。

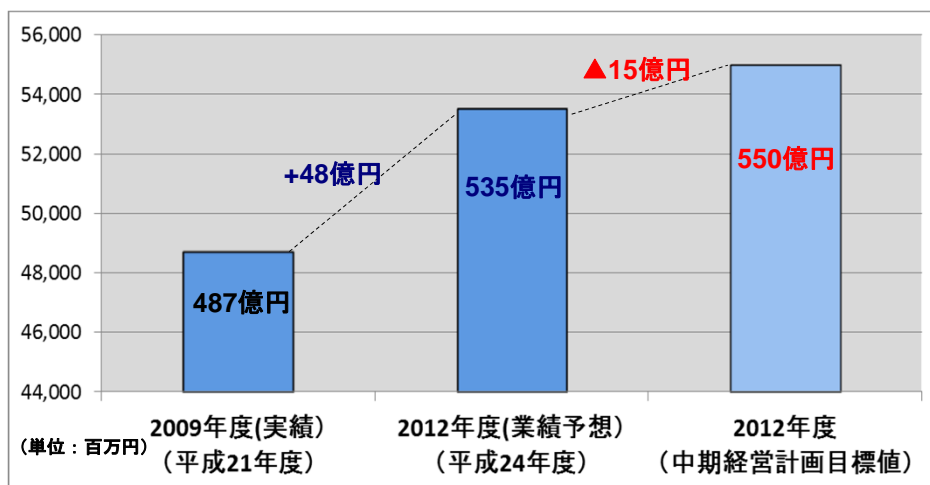
II-3. 事業セグメント別営業利益（予想）

（単位：百万円）

	前期実績	上半期 (1Q・2Q) 実績	下半期 (3Q・4Q) 予想	当期予想	前期比	
					金額	比率
物流事業	1,449	740	439	1,180	▲269	▲18.6%
不動産事業	2,968	1,380	1,819	3,200	231	7.8%
計	4,418	2,121	2,258	4,380	▲38	▲0.9%
その他	▲24	—	—	—	24	—
調整額	▲1,670	▲799	▲730	▲1,530	140	—
連結営業利益	2,722	1,321	1,528	2,850	127	4.7%
営業利益率	5.1%	4.8%	5.9%	5.3%	+0.2ポイント	—

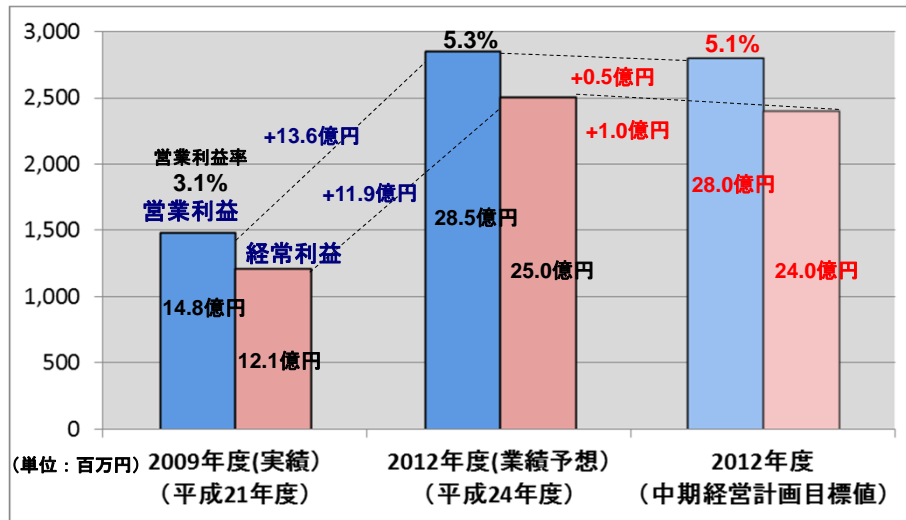
II-4. 中期経営計画のレビュー

中期経営計画3年間（2009~12年度）の営業収益推移



Ⅱ-4. 中期経営計画のレビュー

中期経営計画3年間（2009~12年度）の営業/経常利益推移



滋澤倉庫株式会社

17

Ⅱ-4. 中期経営計画のレビュー

<外部要因>

- ✓ 主力の日用雑貨、飲料等消費財の荷動きは堅調に推移
- ✓ 震災の影響による在庫拠点分散化、在庫積み増し
- ✓ 金利水準の低下継続による資金調達コスト低減

<内部要因>

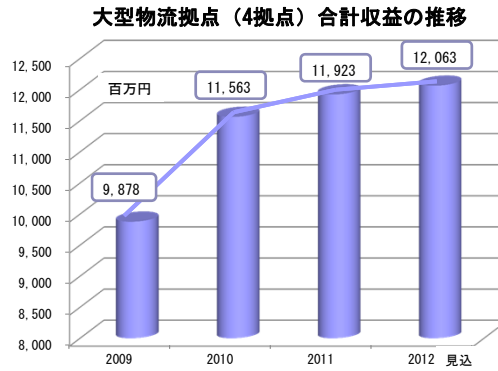
- ✓ 新規受注などで大型物流拠点の稼働率が高水準で推移
- ✓ 流通加工業務拡大など、物流センターの収益性が向上
- ✓ 海外拠点の拡大と採算性の向上
- ✓ 不採算事業の売却(ゴルフ場事業)、不採算拠点の閉鎖
(利益率向上も、営業収益は若干目標を下回る)

滋澤倉庫株式会社

18

II-4. 中期経営計画のレビュー

新規受注などで大型物流拠点の稼働率が高水準で推移

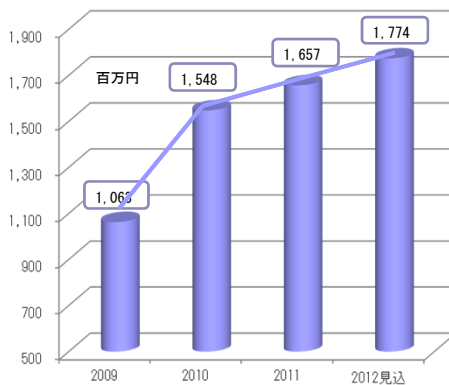


消費財の荷動きが堅調に推移し東西の大型4拠点がフル稼働
2012年度の収益見込みは、2009年度比で22.1%の増収

II-4. 中期経営計画のレビュー

流通加工業務の拡大により物流センターの収益性が向上

流通加工業務を伴う作業料収益の推移



- ◆ 保管貨物の流通加工を行うことで、コストの低減・管理の一元化を顧客へ提案
- ◆ 23年度は震災の影響で上半期落ち込んだが、新規受託もあり、規模は年々拡大

II-4. 中期経営計画のレビュー

海外拠点の拡大と採算性の向上

ベトナムに現地法人を設立し、日越間の国際一貫輸送が拡大

半期ベースで約2.8億円
(+57%) 収益増加
(vs. 2009 年度上半期比)

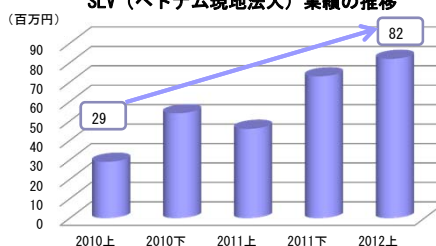
半期ベースで約53百万円
(+79%) 収益増加
(vs. 2010 年度上半期比)

自動車部品関連の一貫輸送業務の推移



※2010年より連結子会社

SLV (ベトナム現地法人) 業績の推移



II-4. 中期経営計画のレビュー

新規業務の状況

昨年度新規受注した業務は計画通りに推移

23年度新規4業務合計
年間見込収益650百万円



上半期実績324百万円
(進捗率49.8%)

平成24年度新規業務獲得状況

家電製品の配送センター業務 8月開始 年間見込収益122百万円
保管・入出庫・流通加工・配送業務の一括受託

キッチン用品の配送センター業務 7月開始 年間見込収益48百万円
保管・入出庫・流通加工・配送業務の一括受託

II-4. 今後の課題

既存サービス機能の高度化とローコスト体制への展開

神戸港における自動車部品の取組み例から



- ◆ 既存のサービス機能をデータの活用や荷主企業と一体となった改善活動により高度化させ、ローコスト体制を実現する
- ◆ 取組み例の各拠点への展開
- ◆ 輸送コストの低減と環境負荷低減の実現

改善活動の結果

- * 倉庫スペースの活用 (20%UP)
- * 輸送積載効率向上 (10%UP)
- * 作業効率向上
- * リードタイムの短縮

II-4. 今後の課題

引越部門のシルバーサポートサービス



濠澤のシルバーサポート

高齢はスタートに、
 残っている物と捨てるべき物を見分ける。
 一人では持ち上げられない重い家具を動かしたり、
 捨てられないけど売ってしまいたい物の品を保管したり、
 いらぬ物を処分したり、
 留守になった家の鍵をまわしたり、
 住居の必要に応じて必要なお話をします。
 濠澤は毎日の日常生活をお手伝いいたします。

引越部門における業務拡大戦略

シルバーサポート
サービス

ファシリティ
マネージメント

2012年内に開始予定

- ◆ 少子高齢化時代へ対応
- ◆ 高齢者施設などへの転居に伴う「レイアウト」「片付け」「不用品引取」「家財保管」「各種手続きの代行」など
- ◆ 新しい12のサービスを商品化

Ⅱ-5. 設備投資の状況（資金ベース）

（単位：百万円）

	当第2四半期 実績	当期見込
川崎物件購入代金	5,200	5,200
神戸ポートアイランド土地取得代金（総額約2,580百万円）	500	500
「ドミー三宮」建築工事	320	320
オフィスビル関係改修工事	30	310
荷役設備・機器等購入	30	60
その他設備改修工事他	10	110
ソフトウェア開発関連	110	190
連結子会社 車両購入・建物改修等	230	340
合 計	6,430	7,030

Ⅱ-6. 配当の状況

（単位：円）

		中間配当	期末配当	年間配当	配当性向 (連結)
平成24年3月期	実績	3.00	3.50	6.50	53.1%
平成25年3月期	予定	3.50			
	予想		3.50	7.00	44.4%

利益配分に関する基本方針：

当社は、当社事業の公共性をも踏まえ、当社事業の持続的成長を実現することを旨としており、そのため、長期的かつ安定的な経営基盤の確保と財務体質の強化に努めております。配当につきましても、業績および将来の見通しに配慮しながら安定的に実施することを基本としております。

また、内部留保は、事業拡大のための設備投資や借入金返済等財務基盤の強化に充てるとともに、機動的な資本政策や総合的な株主還元策のために有効活用し、企業価値の向上ならびに株主価値の増大に努めてまいります。

